

## 逐次刊行物の目録一覧からの検討

河内 聡子

### 1. はじめに

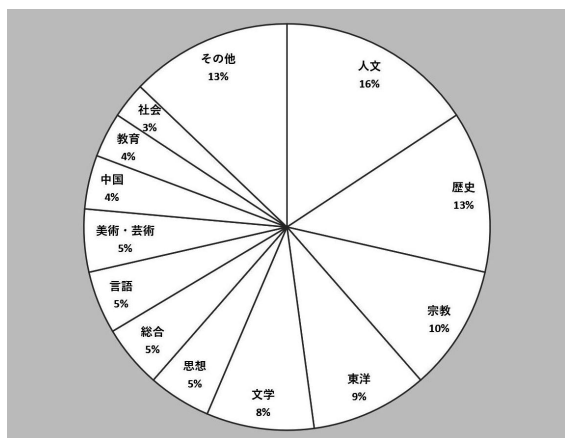
本稿では、ベトナム社会科学院に所蔵されている旧フランス極東学院（以下EFEO）から引き継いだ日本語図書のうち、逐次刊行物に関して論じる。ベトナム社会科学院には、近世期の和本から近代以降の洋装本まで、11,000冊もの日本の書籍が保存されており、東南アジア地域における日本語図書の最たる蔵書数を誇っている。<sup>(1)</sup>この貴重な資料群については、これまでの先行論において、蔵書調査および共同研究の概要や、資料の特徴に関する分析、あるいは所蔵される資料に関する紹介と解説など、様々な観点から成果が報告されている。本論もその研究に連なるものであるが、所蔵される資料の中から、特に逐次刊行物<sup>(5)</sup>を対象とし、目録を一覧にするとともに、その全体的な傾向や特徴を示した上で、いくつかの資料を取り上げて具体的に検討してみたい。

### 2. ベトナム社会科学院所蔵の逐次刊行物の概要

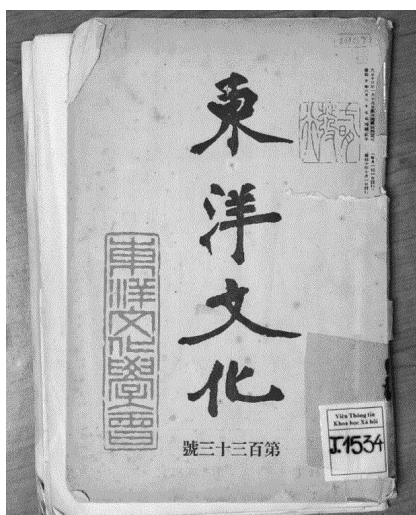
ベトナム社会科学院が所蔵する逐次刊行物は、全144タイトル、総数はおよそ2,000冊<sup>(6)</sup>であり、古くは1879年から、新しくは1957年発行のものまでである（本稿末の目録一覧を参照）。すなわち、フランスがベトナムより撤退したことを受けて、EFEOが本部をハノイからパリへと移した年である1957年までの資料が確認できる。

資料の種類としては、『太陽』や『風俗画報』など大衆的な一般誌も含まれるが、多くは学術誌と機関誌となっている。特に目立つのが、大学や研究所、学会や研究会などの刊行物であり、それらのほとんどが連番で所蔵されていることから、継続的な購入あるいは寄贈がなされていたことがうかがえる。これはEFEOがハノイに開設されてから移転するまでの長期にわたり、日本の様々な研究機関と関係を結びながら学術的な交流の窓口として機能し、日本に関する学問および文化を研究する一つの拠点となっていたことの証左に他ならない。

内容としては、全体的に人文社会系のものが大半を占めている【図1】。最も割合多い「人文」は、文学・歴史・哲学・言語学・宗教学・社会学など人文系の諸領域の論文を広く収載したものを指し、主に文学部の紀要などがこれに当たる。一覧を見れば日本各地の国公立大学の名前が確認でき、その中には『京城帝国大学法



【図1】雑誌および定期刊行物 ジャンル別分類



【図2】NBC4444『東洋文化』133(1935)

文学部紀要』や『台北帝国大学文政学部史学科研究年報』といった、日本統治下の朝鮮や台湾において発行された大学紀要も含まれている。

このように、所蔵される逐次刊行物は、「極東」を研究する機関であるという「学院」の性格に基づき、歴史的な文脈を帯びながら、一定の傾向を示している。例えば歴史学や宗教学と並んで「東洋学」が優先的な地位を占めるのは、まさに「極東学院」としての特性を示すとともに、時代的な潮流をもうかがわせるものである【図2】。また、『日満支石炭時報』（日満支石炭連盟発行）、『新亜細亜』（満鉄東亜経済調査局）、『南方』（南支調査会）など、外地において発行された雑誌や機関誌が収蔵されていることも、この資料群を特徴付けるものとして注目されよう。

一方で、資料の中には、選書に関わった人物の影響をうかがわせるものも含まれてい

る。例えば、「美術・芸術」は割合としては必ずしも多くないが、まとまった冊数として際立っており、継続的な収集が確認できる。<sup>(7)</sup> そのうち、能を専門とする雑誌『能楽』が所蔵されているが、これは1907年から EFEO の研究員と司書を兼務していた能楽研究者であるノエル・ペリの趣向によるところかと推察される。<sup>(8)</sup> 書籍の目録にも能楽関係の資料が多く含まれており、ペリの能楽研究に資する文献の一環であった可能性は高いだろう【図3】。また、『日本美術』といった美術専門雑誌も多

く所蔵されており、これは三代目の学院長（1908年～）で日本の美術に精通していたことで知られるクロード・メートルとの関わりも思わせる<sup>(9)</sup>。

ペリやメートルの例に限らず、蔵書の傾向は資料を管理あるいは運営していた人物の指向性による一定の影響を免れない。その意味で1931年から司書となった金永鍵も、EFEOの蔵書形成に重要な役割を果たした人物として特筆される。詳しくは後述するが、金永鍵は多くの日本と朝鮮の資料を寄贈し、「内容分類をその多い順に並べてみると、歴史類、語学類、文学類、辞書類、書目類、哲学類、考古類、族譜類などであった」とされ、その内訳は、図1に示した逐次刊行物の所蔵状況と、傾向的に重なりを見ることは難しくない。

次節からは、この資料群の特性を考える上で留意すべき観点として、金永鍵の関わりによって収集された可能性のある逐次刊行物について述べてみたいと思う<sup>(11)</sup>。

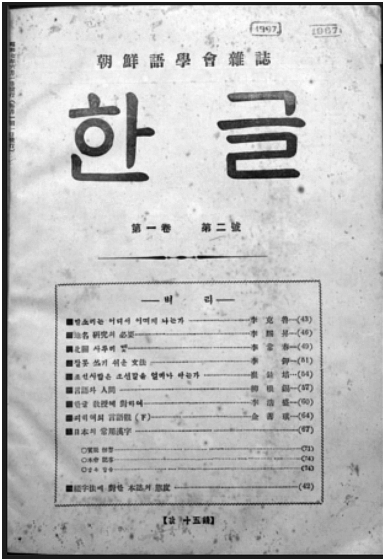
### 3. 金永鍵と朝鮮関連の刊行物

金永鍵は、1931年からEFEOで働き、翌年に正式雇用されて日本図書室の補助司書になり、1936年4月からは主任となって、1940年まで勤めた<sup>(12)</sup>。金永鍵はハノイに着任してからベトナムに対する関心を強くして研究にも着手し、1932年頃から論文などの形で発表するようになる。EFEOに所属している期間には、特にベトナムの言語や日越の関係史についての研究に力を入れて、後に刊行される『日・仏・安南語会話辞典』（岡倉書房、1942年）や、『印度支那に於ける邦人発展の研究』（杉本直治郎との共著：富山房、1942年）、『印度支那と日本との関係』（富山房、1943年）といった書籍の礎となる成果を次々に生み出した。

ベトナム社会科学院が所蔵する逐次刊行物には、金永鍵がEFEOに在籍していた時期に、その関連において収集されたと目される資料が散見される。それらは、日本語あるいは朝鮮語で記された朝鮮に関するものであり、『한글』、『靑丘学叢』、『靑年朝鮮』、『震檀学报』、『正音』がこれに該当する【次頁表参照】。このことに関して、尹大栄は次のように述べている。



【図3】NBC2991『能楽』13巻1（1915）



【図4】NBC4111『한글』1巻2(1927)

当時、朝鮮語学会で出版された書籍や、『한글』[ハングル]、『正音』などのような学術誌を寄贈したことから、ベトナム現地社会にハングルを知らせるために努力したと推測することができる。特に『한글』は、国語学者で同時に独立運動家だった李允宰(1888-1943)が定期的に金永鍵に送ったものをすべて読んだ後、フランス極東学院に寄贈したと考えられる。

以上のような指摘を踏まえると、先に挙げた資料のいくつかは、金永鍵の縁故を契機としてもたらされたと考えられる<sup>(13)</sup>。特に、『青年朝鮮』、『震檀学报』、『한글』<sup>ハングル</sup>に金永鍵が寄稿している事実は、その可能性を裏打ちすると言えよう。<sup>(14)</sup>

| 誌名         | 発行元     | 創刊    | 概要   |
|------------|---------|-------|--|
| ハングル<br>한글 | 朝鮮語学会   | 1927年 | 朝鮮語学会は1921年に発足した朝鮮語と文字の研究を目的とする組織で、現在のハングル学会。日本による朝鮮語の規制・弾圧が激化する中で抵抗し、1942年10月に学会員が検挙・投獄されるという「朝鮮語学会事件」により、機関誌は10巻で廃刊となったが、46年以降に復刊した。 |
| 青丘学叢       | 青丘学会    | 1930年 | 青丘学会は京城帝国大学国文学部と朝鮮総督府の朝鮮史編修会の学者を中心として1930年に設立された学会で、その機関誌。目的は「朝鮮と満州を中心として極東文化を研究し普及すること」(創刊号)とする。1939年30号を以て終刊。                        |
| 青年朝鮮       | 青年朝鮮社   | 1934年 | 朝鮮の青年向けに刊行された左翼系の雑誌。抗日的な主張を含むことからか、1号のみで以後の刊行は確認されていない。  |
| 震檀学报       | 震檀学会    | 1934年 | 震檀学会は1934年に朝鮮の歴史研究のために組織された学術団体で、実証史学の立場から、歴史・文化・言語などを研究した。同年11月に機関誌を創刊し季刊発行していたが、1940年に日本の弾圧により解体され、14号で終刊した。                         |
| 正音         | 朝鮮語学研究会 | 1934年 | 朝鮮語学研究会は、朝鮮語学会とは学派を異とする研究会で、1931年に設立した。『한글』とは、「標準語」の規定、終声子音字母の認定などをめぐって誌上で主張が対立していた。朝鮮語の使用に対する日本側の圧力が高まる中でも発行を続け、1941年37号まで刊行。         |

4. 『小川香料時報』所蔵の背景—金永鍵の香料研究—

前節では日本図書室の主任を務めた金永鍵が由来となった可能性の高い資料について、特に朝鮮関係のものを対象に述べたが、それとはまた別に、彼との関連性を示す資料がある。それは『小川香料時報』という企業機関誌である【図5】。ベト



ナム社会科学院に所蔵されているいくつかの企業機関誌は、主に鉄道や鉱産など外地の産業に関わった会社のものであり、国内の香料メーカーの機関誌というのは一見すると浮遊したものにも思えるのだが、この資料の来歴にも金永鍵が関わっていたと推測されるのである。本節では、まずは『小川香料時報』について紹介し、歴史的な背景を踏まえた上で、その可能性について触れていきたい。

『小川香料時報』は、香料製造販売業の会社「小川香料」が発行していた機関誌である。1927年5月に創業35周年の記念事業の一環として刊行され、「香料に関する情報を網羅し、香料についての知識と認識の向上をはかるための、いわば香料に関する啓蒙書といえるもの」<sup>(15)</sup>であるとされる。社内に編集担当も配置し、香料を専門とする

本格的な学術雑誌を目指して毎月定期刊行された。内容は、香料の種類や知識の紹介および解説、市況や一般的社会状況など、香料に関する事柄の多岐に及び、学術的な研究成果に基づく専門論文も掲載された。初期は欧米諸国の論文の翻訳が中心であったが、社内の研究開発が進み、合成香料の需要が高まると「香料化学」に関する独自の成果が論文として発表されるようになり、会社の成長と共に雑誌としても固有の地位を得ることとなった。1938年頃より、時局の変化による香料の需要の低下に伴って研究開発も滞り、刊行も難航し、1944年3月に通算200号を以て廃刊<sup>(16)</sup>となっている。

ベトナム社会科学院には1936年以降の『小川香料時報』が数冊所蔵されているが、一部にのみ頒布された企業の機関誌がここに存在するのは何故なのだろうか。必ずしもまとまった所蔵ではないものの、この資料がこの場所に至っている経緯について言及を試みるのは、「小川香料」の当時の事業展開といささか重なるところがあるからである。

1932年以降、日本国内では化粧品消費が増加、国産品の生産量も向上し、原料の確保が問題となり、小川香料の製造所は生産能力の増強と、合成香料の増産を進めていたという。しかし、多くを輸入に依存していた天然香料については国際情勢



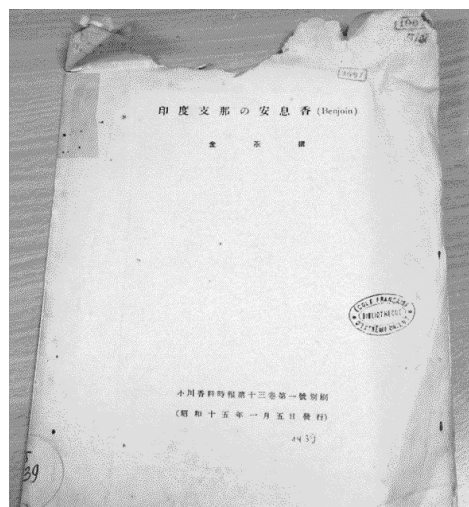
【図5】『小川香料時報』14巻2(1941)  
※VASS所蔵のものは表紙が剥離していたため、著者の私蔵を用いた。なお、表紙のデザインは創刊より一貫している。

に大きく左右されており、1933年以降は主な輸入元であったヨーロッパとの関係悪化に伴って、安定的な原料確保の方法を模索することとなった。そこで、生産現地から直接輸入する体制を整えるため、香料の原産国であるアジア諸国へ調査団を派遣したのである。その第一団が派遣されたのが、1936年2月から11月の期間であり、初めの渡航先はベトナムのトンキンとアンナンであった。翌年にはその成果をもとにして再訪し、桂皮と大茴香など具体的な原料に関する視察を行っている。小川香料は1936年12月、台湾に農場と製油所を開設して原料生産の拠点を築いて、それ以降にアジア諸国における事業の展開を本格化させており、その過程で原産国の一つとしてベトナムとの関係は生じていったのである。<sup>(17)</sup>

あくまで推論の域を出ないが、『小川香料時報』がベトナム社会科学院に所蔵されている事実と、小川香料のアジア進出という出来事が、緩やかに接続するものである可能性も考えられるだろう。それは、会社の事業展開と、所蔵されている資料が時期的に重なっているということからも示唆される。

そして、一つの具体的な裏付けとして注目すべきは、『小川香料時報』（13巻1号：1940年1月）の抜刷として、金永鍵の論文「印度支那の安息香」（NBC4224）が所蔵されていることである【図6】。金永鍵のEFEOにおける所蔵文献の目録を調べた尹大栄によれば、彼が収集に関わった可能性のある蔵書のうち「歴史に対する関心は、朝鮮史、ベトナムと日本との関係史、香料をめぐるアジアと西欧の関係史などに集中していた」<sup>(18)</sup>という。小川香料および調査団との関連による寄稿である

のか、あるいは元来の関心に基づく成果による投稿であるのか断定できないが、当時EFEOの日本図書室主任であった金永鍵が、必ずしも自身の専門とは言えないインドシナ地域の香料に関する論文を『小川香料時報』に発表していたことは興味深い。少なくとも、如上のような歴史的背景を一つの文脈として踏まえることは、『小川香料時報』と金永鍵の抜刷記事が、ベトナム社会科学院に所蔵されている経緯を考えるうえで必要であることは間違いないだろう。



【図6】NBC4224金永鍵「印度支那の安息香」1940（『小川香料時報』13巻1抜刷）

## 5. おわりに

以上、本稿ではベトナム社会科学院に所蔵されている逐次刊行物について、いくつかの視点から述べてきた。資料群の全体的な傾向としては、人文社会系の内容を中心とした学術系のものを多く含んでおり、極東を研究する機関としての性質を基底に据えながら、歴史的な文脈を多分に帯びたものであると言える。また、資料の選択に当たる司書などの存在も、蔵書形成の上で重要な意味を持っていたことについて、特に金永鍵を対象として具体的に検討し、朝鮮関連の資料や『小川香料時報』をめぐる来歴の可能性を示した。

本稿で取り上げた資料はほんの一部であり、これらの資料群については、様々な観点から多くの論究が可能となるものと思われる。その上で、今回の蔵書調査および目録作成によって、一覧として公開されたことの意義は大きい<sup>(19)</sup>。しかし一方で課題となるのは、資料の保存の問題であろう。雑誌などの逐次刊行物は、一概に他の書籍と比べても紙質が優れず、また綴方も甘い場合が少なくないため、劣化や散逸の危険性はより高くなる。現在、ベトナム社会科学院では温度や湿度を適正に調整して大切に保管されているものの、既にいくつかの資料については閲覧に供することが難しいものもある。資料群の中には、本稿で紹介した『青年朝鮮』や『한글』、『小川香料時報』などのように、必ずしも多くの図書館で所蔵されていない希少性の高い逐次刊行物がいくつも残されており、一部に関してはデジタル化していくことも検討する必要があるようにも思われる。激動の歴史を経てベトナムに集積されたこれらの貴重な資料群をこれからも残していくために、研究というアプローチからまずはその重要性の発信に資することができるよう、今後も取り組んでいきたい。

- (1) ベトナム社会科学院の資料に関しては、その経緯や特徴について和田敦彦「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—東南アジア地域の日本語図書調査から—」(『リテラシー史研究』第7号、2014年)で詳しく述べられている。
- (2) 和田敦彦「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—東南アジア地域の日本語図書調査から—」(前掲)、同「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—共同研究と調査の進展—」(『リテラシー史研究』第9号、2016年)。
- (3) 渡辺匡一「ベトナム社会科学院蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査の経過報告—和装本資料群の特徴について—」(『リテラシー史研究』第10号、2017年)、海野圭介「江戸時代初頭の出版物を中心に(ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査)」(『リテラシー史研究』第11号、2018年)。
- (4) 佐野愛子「ベトナム社会科学院所蔵の「異国渡海御朱印帳」、「異国近年御書草案」、「異国御朱印帳」、および「安南記」、「安南来状」について」(『リテラシー史研究』第10号、2017

年)、同「日越交流に関わる資料を中心に (ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査)」(『リテラシー史研究』第11号、2018年)、中野綾子「『河内日本人会会員名簿』について (ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査)」(『リテラシー史研究』第11号、2018年)、和田敦彦「在仏印日本文化会館関係資料について (ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査)」(『リテラシー史研究』第11号、2018年)。

- (5) 本論で対象とする「逐次刊行物」について念のため定義しておく、同タイトルで定期的あるいは不定期的に複数回にわたって発行され (あるいは発行が想定され)、逐次的に数字などの記号が付されている出版物のことである。具体的には、雑誌・新聞・時報・会報・紀要・機関誌など。
- (6) 目録データに登録されているのは1,400点あまりであるが、一点で複数冊が合冊されている場合があるため、それらを換算すると約2,000冊となる。
- (7) 今回、ジャンルの割合は逐次刊行物のタイトル数で計算している。「美術・芸術」はタイトルとしては多くを占めないが、所蔵されている冊数で換算すると、全体の二割以上を占めることになる。
- (8) ノエル・ペリ (1865-1922) は、1907年より EFEO に研究員として着任、図書館の司書も兼務し、主に日本に関する歴史および文化研究を行った。特に能を専門とし、日本の能楽や謡曲をフランス語に翻訳した人物として知られる。もとは宣教師として1889年来日したペリは、東京音楽学校の嘱託教師として指導する傍ら、日本の伝統文化の研究を行った。ハノイ着任後も数回にわたって長期の来日を果たし、EFEO のために日本の出版物や美術品を購入している。1922年にハノイにて不慮の事故により没する。(以上については、和田敦彦「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—東南アジア地域の日本語図書調査から—」(前掲)、藤原貞朗「第二次世界大戦期の日本と仏領インドシナの『文化協力—アンコール遺跡の考古学をめぐって— (前編)』(『茨城大学人文学部紀要 社会科学論集』45号、2008年)、および和田敦彦『書物の歴史を問う』(笠間書院、2014年)を参考とした。)
- (9) クロード・メートル (1876-1925) は、1901年に EFEO の研究員となり、1908年から1920年にかけて学院長を務めた。1898年に初めて日本を訪れて以来、長期にわたって複数回来日しており、その間に日本の美術と歴史に関する造詣を深め、のちにフランスにおける日本学の開祖の一人ともされるようになる。学院長を退任した後は、本国のギメ東洋美術館の副館長に就任し、その経験と知識を活かした。また、1923年に創刊されたフランス語による日本専門雑誌『Japon et Extrême-Orient (日本と極東)』の主幹として、その発行および記事の執筆などに尽力した。1924年に病に倒れ、翌年に没した。(以上については、和田敦彦「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—東南アジア地域の日本語図書調査から—」(前掲)、クリストフ・マルケ「雑誌『Japon et Extrême-Orient / 日本と極東』と1920年代フランスにおける日本学の萌芽」(『日仏文化』83集、2014年)を参考とした。)
- (10) 尹大栄「1930-40年代の金栄鍵とベトナム研究」(『東南アジア研究』48巻3号、2010年12月)
- (11) 金永鍵については、佐野愛子氏が2017年11月にホーチミン市で開催された国際会議「Vietnam and The Oriental Cultural Exchanges」での口頭発表において、彼の略歴とともに



に、ベトナム社会科学研究所蔵の著作物を取り上げて日越交流史に関する資料として紹介している。その報告概要については、佐野愛子「日越交流に関わる資料を中心に」（前掲注4）を参照されたい。

- (12) 金永鍵に関する情報は、彼の業績について詳述した管見の限り唯一の日本語論文である尹大栄の論稿（前掲注10）に依っている。本文以下の引用箇所も全て同論文によるため、一部の注記を割愛した。なお、尹の論文は韓国で発表され、のちに加筆のうえ、李美智によって翻訳されたものである。
- (13) なお、逐次刊行物に限らず、NBC4000番台の前半には、朝鮮語に関わる書籍が多く所蔵されており、併せて注目される。
- (14) 『青年朝鮮』1号（1934年10月）に「東洋学史論」、『震檀学報』10号（1939年）に「安南普陀山名考」、『한글』44巻5号（1937年）に「安南ハノイ通信」をそれぞれ寄稿している。特に震檀学会との関わりは密であったようで、具体的な交流や影響については尹大栄の論（前掲注10）に触れられてる。
- (15) 小川香料株式会社『小川香料百年史』（小川香料株式会社、1995年）
- (16) 以上については『小川香料百年史』（前掲注15）を参考とした。
- (17) この頃に日本最大の香料企業である「高砂香料（現高砂香料工業）」もアジアへの進出を本格化させて、1938年に本社を台北に移転する動きを見せている。なお、日本の香料に関する歴史および東南アジアへの展開に関しては、『小川香料百年史』（前掲注15）と、山田憲太郎『東亜香料史研究』（中央公論美術出版、1976年）、同『日本香料史』（同朋舎、1979）を参考とした。山田憲太郎は、日本の香料および香料史研究の第一人者であるが、元は小川香料の社員であり、『時報』の編集に中心的な役割を果たした。
- (18) 前掲注10
- (19) 「ベトナム社会科学研究所 旧 EFEO 収集日本語文庫目録（洋装本）」（リテラシー史研究会データベース <http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/database.html>）
- (20) 他にも、『あなない』（NBC5545-）、『会友』（NBC2450）、『学海』（NBC3776）、『経学院雑誌』（NBC3981-）、『国際評論』（NBC4354）、『朱子学』（NBC874-）などの雑誌は、所蔵している図書館が少なく、希少性が高い。なお、『小川香料時報』は一部が国会図書館に所蔵されデジタル化されているが、社会科学研究所蔵しているものは欠巻となっている。

## 逐次刊行物目録一覧

### 《凡例》

この目録は「ベトナム社会科学研究所 旧 EFEO 収集日本語文庫目録（洋装本）」（リテラシー史研究会データベース <http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/database.html>）を基礎データとして、抽出、タイトル別に項目を立てて作成したものである。

【巻号】①巻数と号数がある場合は号数を括弧で表記し、巻数あるいは号数の場合は数字のみで表記した。例）1巻7号＝1（7）／12集＝12

②資料が揃いで所蔵される場合はハイフン（-）で示し、欠号をはさむ場合はコンマ（,）で示した。

【分類1】一般誌・学術誌・機関誌の3つに分類した。「一般誌」は書店など一般の流通販売経

路で入手可能なもの、「学術誌」は専門的な論文や研究報告が掲載されたもの、「機関誌」はある組織・集団が所属する構成員および関係機関に頒布したものである。(なお、学術団体の発行でも、「年報」など事業報告的な内容のものは「機関誌」に分類した。)

【分類2】刊行物の内容からジャンルとして分類した。特に、学術誌については、専門領域に即して分類している。

例) 歴史学→歴史／社会学→社会／言語学→言語

(なお、「東洋」や「中国」は、文学、歴史、言語などの諸専門領域にまたがって、その地域に関することを研究対象とした内容である。)

|    | 誌 名                   | 所蔵巻号                               | 発 行          | 発 行 年            | 分類1 | 分類2 |
|----|-----------------------|------------------------------------|--------------|------------------|-----|-----|
| 1  | 青丘学叢                  | 1, 5, 27                           | 青丘学会         | 1930, 1931, 1937 | 学術誌 | 人文  |
| 2  | 青垣                    | 1                                  | 青垣発行所        | 1927             | 一般誌 | 文学  |
| 3  | あなない                  | 5(5),(6)                           | 三五教国際総本部     | 1954             | 機関誌 | 宗教  |
| 4  | 印度学仏教学研究              | 1(1), 2(1)(2),<br>4(1)(2), 5(1)(2) | 日本印度学仏教会     | 1952-1957        | 学術誌 | 宗教  |
| 5  | 大阪市立医科大学雑誌            | 3(1)                               | 大阪市立医科大学     | 1953             | 学術誌 | 医学  |
| 6  | 大谷学報                  | 21(1)-23(4)                        | 大谷学会         | 1940-1942        | 学術誌 | 宗教  |
| 7  | 大谷大学研究年報              | 1                                  | 大谷学会         | 1942             | 機関誌 | 宗教  |
| 8  | 岡山大学法文学部学術紀要 哲学・史学・文学 | 1                                  | 岡山大学法文学部     | 1952             | 学術誌 | 人文  |
| 9  | 小川香料時報                | 9(6), 12(2), 13(1)                 | 小川香料店        | 1936, 1939, 1940 | 機関誌 | 化学  |
| 10 | 海外仏教事情                | 7(3), 9(4)                         | 国際仏教協会       | 1941, 1943       | 一般誌 | 宗教  |
| 11 | 会友                    | 9                                  | 暹羅国在留日本人会    | 1916             | 機関誌 | 総合  |
| 12 | 学生                    | 6(1),(2)                           | 富山房          | 1915             | 一般誌 | 教育  |
| 13 | 学海                    | 3                                  | 東京学館独修部      | 1890             | 機関誌 | 教育  |
| 14 | 鹿大史学                  | 1                                  | 鹿児島大学史学地理学教室 | 1953             | 学術誌 | 歴史  |
| 15 | 漢学                    | 1(1)-2(7)                          | 東亜学術研究会      | 1910-1911        | 学術誌 | 漢学  |
| 16 | 漢学会雑誌                 | 1(1)                               | 漢学会          | 1933             | 学術誌 | 漢学  |
| 17 | 棋道                    | 2-6                                | 方円社          | 1914-?           | 機関誌 | 娯楽  |
| 18 | 経学院雑誌                 | 11, 21, 31                         | 経学院          | 1916, 1921, 1930 | 学術誌 | 思想  |
| 19 | 京城帝国大史学会誌             | 13                                 | 京城帝国大史學會     | 1933             | 学術誌 | 歴史  |
| 20 | 曉星                    | 46, 47                             | 曉星学校         | 1940, 1941       | 機関誌 | 教育  |
| 21 | 京都大学人文科学研究所紀要         | 1                                  | 京都大学人文科学研究所  | 1951             | 学術誌 | 人文  |
| 22 | 京都大学文学部研究紀要           | 1                                  | 京都大学文学部      | 1952             | 学術誌 | 人文  |
| 23 | 京都帝国大学文学部考古学研究報告      | 1-7                                | 京都帝国大学       | 1914-1922        | 学術誌 | 歴史  |
| 24 | 京城帝国大学法文学部紀要          | 1                                  | 京城帝国大学法文学部   | 1929             | 学術誌 | 人文  |
| 25 | 芸文                    | 1(1)-22(2)                         | 京都文学会        | 1910-1931        | 学術誌 | 文学  |
| 26 | 芸文研究                  | 1                                  | 慶應大学文学部芸文学会  | 1951             | 学術誌 | 文学  |
| 27 | 劇作                    | 21-32                              | 白水社          | 1933-1934        | 一般誌 | 芸術  |
| 28 | 原価計算                  | 2(11)                              | 日本原価計算協会     | 1942             | 機関誌 | 経済  |
| 29 | 研究年報                  | 1-5                                | 東北大学教育学部     | 1952-1957        | 機関誌 | 教育  |
| 30 | 研究論文集                 | 1-5                                | 文学・哲学・史学学会連合 | 1950-1954        | 学術誌 | 人文  |
| 31 | 言語学雑誌                 | 1(1)-(10)                          | 言語学会         | 1900             | 学術誌 | 言語  |
| 32 | 現代                    | 4(7)                               | 中興館          | 1913             | 一般誌 | 社会  |
| 33 | 現代仏教                  | 1-80                               | 大雄閣          | 1924-1933        | 一般誌 | 宗教  |
| 34 | 考古                    | 1(1)-(7)                           | 考古学会         | 1900             | 学術誌 | 歴史  |
| 35 | 考古学雑誌                 | 1(1)-21(6)                         | 考古学会         | 1910-1931        | 学術誌 | 歴史  |
| 36 | 皇典講究所講演               | 1-180                              | 皇典講究所        | 1889-1896        | 学術誌 | 思想  |
| 37 | 聲                     | 775                                | 聲社           | 1940             | 機関誌 | 宗教  |
| 38 | 國學院雑誌                 | 1(1)-33(12)                        | 國學院大學        | 1894-1927        | 学術誌 | 人文  |
| 39 | 国季刊                   | 2(1)                               | 国立北京大学       | 1924             | 学術誌 | 人文  |

|    |                       |                      |                      |            |     |    |
|----|-----------------------|----------------------|----------------------|------------|-----|----|
| 40 | 国語漢文講義                | 1-41                 | 国語漢文学会               | 1901-1903  | 學術誌 | 言語 |
| 41 | 国際学友会会報               | 5                    | 国際学友会                | 1942       | 機関誌 | 教育 |
| 42 | 国際評論                  | 6(9)                 | 国際評論社                | 1941       | 一般誌 | 社会 |
| 43 | 国立国語研究所年報             | 3                    | 国立国語研究所              | 1952       | 機関誌 | 言語 |
| 44 | 古蹟                    | 2(1)-3(2)            | 帝国古蹟取調会              | 1903, 1904 | 學術誌 | 歴史 |
| 45 | 古蹟調査報告                | 昭和12, 13年度           | 朝鮮古蹟研究会              | 1938, 1939 | 學術誌 | 歴史 |
| 46 | 古代学                   | 1(1)-3(4)            | 古代学協会                | 1952-1954  | 學術誌 | 歴史 |
| 47 | 史学                    | 1(1)-26(2)           | 三田史学会                | 1921-1952  | 學術誌 | 歴史 |
| 48 | 史学界                   | 1(1)-7(9)            | 富山房                  | 1899-1905  | 學術誌 | 歴史 |
| 49 | 史学会雑誌                 | 1-36                 | 史学会                  | 1889-1892  | 學術誌 | 歴史 |
| 50 | 史学研究                  | 1(1)-12(1)           | 広島史学研究会              | 1929-1940  | 學術誌 | 歴史 |
| 51 | 史学雑誌                  | 37-732               | 史学会                  | 1892-1954  | 學術誌 | 歴史 |
| 52 | 史前学雑誌                 | 1(1)-2(1)            | 史前学会                 | 1929-1930  | 學術誌 | 歴史 |
| 53 | 自然と文化                 | 1                    | 自然史学会                | 1950       | 學術誌 | 歴史 |
| 54 | 実業之日本                 | 臨時増刊号                | 実業之日本社               | 1915       | 一般誌 | 社会 |
| 55 | 支那学                   | 1(1)-5(12)           | 支那学社                 | 1920-1928  | 學術誌 | 中国 |
| 56 | 支那学研究                 | 6                    | 広島支那学会               | 1950       | 學術誌 | 中国 |
| 57 | 支那研究                  | 28                   | 東亜同文書院支那研究部          | 1932       | 學術誌 | 中国 |
| 58 | 史林                    | 5-116                | 史学研究会                | 1917-1945  | 學術誌 | 歴史 |
| 59 | 斯文学会講義録               | 1-42                 | 斯文学会                 | 1893-1895  | 學術誌 | 人文 |
| 60 | 宗教界                   | 1(2)-9(12)           | 宗教界雑誌社               | 1895-1913  | 一般誌 | 宗教 |
| 61 | 宗教研究                  | 1(1)-8(4)            | 宗教研究編集部              | 1924-1931  | 學術誌 | 宗教 |
| 62 | 朱子学                   | 1-55                 | 同人学舎                 | 1897-1899  | 學術誌 | 思想 |
| 63 | 新亜細亜                  | 3(1)-6(1)            | 南満州鉄道株式会社東亜経<br>済調査局 | 1941-1944  | 一般誌 | 社会 |
| 64 | 真宗学报                  | 162                  | 真宗専門学校出版部            | 1927       | 學術誌 | 宗教 |
| 65 | 震檀学报                  | 1, 4, 7, 9           | 震檀学会                 | 1934-1939  | 學術誌 | 思想 |
| 66 | 人文学報                  | 1-3                  | 京都大学 人文科学研究所         | 1950-1953  | 學術誌 | 人文 |
| 67 | 人類学雑誌                 | 23-63                | 東京人類学会(日本人類学会)       | 1908-1953  | 學術誌 | 人類 |
| 68 | 正音                    | 1-18                 | 朝鮮語学研究会              | 1934-1937  | 學術誌 | 言語 |
| 69 | 青年朝鮮                  | 1                    | 青年朝鮮社                | 1934       | 機関誌 | 社会 |
| 70 | 草上                    | 7(1)-10(1)           | 草上書屋                 | 1934-1937  | 一般誌 | 文学 |
| 71 | 大正大学学报                | 1-10                 | 大正大学                 | 1927-1931  | 學術誌 | 宗教 |
| 72 | 台北帝国大学文政学部史学科<br>研究年報 | 1-7                  | 台北帝国大学文政学部           | 1934-1942  | 學術誌 | 人文 |
| 73 | 太陽                    | 1(1)-33(12)          | 博文館                  | 1895-1927  | 一般誌 | 総合 |
| 74 | 大陸                    | 3(9)                 | 改造社                  | 1940       | 一般誌 | 総合 |
| 75 | 地学雑誌                  | 1-467                | 東京地学協会               | 1889-1928  | 學術誌 | 地学 |
| 76 | 中央公論                  | 42(10)               | 中央公論社                | 1927       | 一般誌 | 総合 |
| 77 | 中外                    | 2(12)                | 中外情勢研究会              | 1918       | 機関誌 | 総合 |
| 78 | 朝鮮学报                  | 1, 3                 | 朝鮮学会                 | 1951, 1952 | 學術誌 | 人文 |
| 79 | 帝国学士院紀事               | 1(1)-3(2)            | 帝国学士院                | 1942-1944  | 學術誌 | 総合 |
| 80 | 帝国古蹟取調会会報             | 1-3                  | 帝国古蹟取調会              | 1900       | 機関誌 | 歴史 |
| 81 | 帝国文学                  | 1(1)-18(12)          | 帝国文学会                | 1895-1912  | 一般誌 | 文学 |
| 82 | 帝室博物館年報               | 大正15年1月-昭和10<br>年12月 | 帝室博物館                | 1927-1936  | 機関誌 | 美術 |
| 83 | 哲学研究                  | 79-292               | 京都哲学会                | 1922-1940  | 學術誌 | 思想 |
| 84 | 天理大学学报                | 1-10                 | 天理大学人文学会             | 1949-1952  | 學術誌 | 人文 |
| 85 | 東亜学                   | 3                    | 日光書院                 | 1940       | 學術誌 | 東洋 |
| 86 | 東亜同文会報告               | 9-76                 | 東亜同文会                | 1900-1906  | 機関誌 | 東洋 |
| 87 | 東亜之光                  | 1(1)-23(6)           | 東亜協会                 | 1906-1928  | 一般誌 | 東洋 |
| 88 | 東京外国語大学論集             | 1                    | 東京外国語大学              | 1951       | 學術誌 | 言語 |
| 89 | 東京商科大学研究年報 経済<br>学研究  | 5                    | 東京商科大学               | 1937       | 學術誌 | 経済 |
| 90 | 東京商科大学研究年報 商学研究       | 5                    | 東京商科大学               | 1940       | 學術誌 | 商学 |
| 91 | 東京商科大学研究年報 法学研究       | 5                    | 東京商科大学               | 1941       | 學術誌 | 法学 |

|     |               |                  |              |                       |     |    |
|-----|---------------|------------------|--------------|-----------------------|-----|----|
| 92  | 東京人類学会雑誌      | 15-283           | 東京人類学会       | 1887-1909             | 学術誌 | 人類 |
| 93  | 東京地学協会報告      | 1(1)-18(4)       | 東京地学協会       | 1879-1896             | 学術誌 | 地学 |
| 94  | 東方学           | 1-10             | 東方学会         | 1951-1955             | 学術誌 | 東洋 |
| 95  | 東方学報          | 1-24             | 東方文化研究所      | 1931-1954             | 学術誌 | 東洋 |
| 96  | 東方学論集         | 1, 2             | 東方学会         | 1954, 1955            | 学術誌 | 東洋 |
| 97  | 東邦協会報告        | 1-198            | 東邦協会         | 1894-1911             | 機関誌 | 東洋 |
| 98  | 東北大学文学部研究年報   | 1-7              | 東北大学文学部      | 1951-1956             | 機関誌 | 人文 |
| 99  | 東洋学芸雑誌        | 16-537           | 東洋学芸社        | 1883-1928             | 一般誌 | 文学 |
| 100 | 東洋学報          | 1(1)-38(4)       | 東洋協会学術調査部    | 1911-1953             | 学術誌 | 東洋 |
| 101 | 東洋協会学術調査部学術報告 | 1                | 東洋協会学術調査部    | 1909                  | 学術誌 | 東洋 |
| 102 | 東洋史研究         | 1(3)-12(1)       | 東洋史研究会       | 1945-1952             | 学術誌 | 歴史 |
| 103 | 東洋思想研究        | 2, 3             | 東洋思想研究所      | 1938, 1939            | 学術誌 | 思想 |
| 104 | 東洋文化          | 133, 221, 復刊1-13 | 東洋文化学会(東洋学会) | 1935, 1943, 1950-1952 | 学術誌 | 東洋 |
| 105 | 東洋文化研究所紀要     | 1-5              | 東洋文化研究所      | 1943-1954             | 学術誌 | 東洋 |
| 106 | 名古屋大学文学部研究論集  | 1-5              | 名古屋大学文学部     | 1952-1953             | 学術誌 | 人文 |
| 107 | 南方            | 3(8)             | 南支調査会        | 1941                  | 機関誌 | 中国 |
| 108 | 日満支石炭時報       | 25               | 日満支石炭連盟      | 1942                  | 機関誌 | 中国 |
| 109 | 日清戦争実記        | 5-50             | 博文館          | 1896-1897             | 一般誌 | 中国 |
| 110 | 日本語           | 1(8)-4(6)        | 日本語教育振興会     | 1941-1944             | 学術誌 | 言語 |
| 111 | 日本鉱業会誌        | 685              | 日本鉱業会        | 1942                  | 機関誌 | 工業 |
| 112 | 日本語学          | 2                | 日本語学振興委員会    | 1942                  | 学術誌 | 人文 |
| 113 | 日本語学研究報告      | 9-12             | 文部省教学局       | 1939-1942             | 学術誌 | 人文 |
| 114 | 日本美術          | 1-195            | 日本美術院        | 1901-1916             | 一般誌 | 美術 |
| 115 | 日本文化          | 35               | 日本文化協会       | 1939                  | 学術誌 | 人文 |
| 116 | 日本文化          | 27-32            | 平凡社          | 1949-1952             | 学術誌 | 人文 |
| 117 | 能楽            | 1(1)-13(11)      | 能楽館          | 1902-1915             | 一般誌 | 芸術 |
| 118 | 한글(ハングル)      | 1(2)-6(1)        | 朝鮮語学会        | 1932-1938             | 学術誌 | 言語 |
| 119 | 美術研究          | 1-169            | 美術研究会        | 1932-1953             | 学術誌 | 美術 |
| 120 | 百万塔           | 1-22             | 金港堂          | 1891-1892             | 一般誌 | 文学 |
| 121 | 広島大学文学部紀要     | 1-3              | 広島大学文学部      | 1951-1953             | 学術誌 | 人文 |
| 122 | 風俗画報          | 1-478            | 東陽堂          | 1890-1915             | 一般誌 | 総合 |
| 123 | 婦人画報          | 増刊号(皇族画報)        | 婦人画報社        | 1915                  | 一般誌 | 婦人 |
| 124 | 仏教史学          | 1(1)-3(12)       | 仏教史学会        | 1911-1913             | 学術誌 | 宗教 |
| 125 | 仏教美術          | 1-6              | 仏教美術社        | 1924-1926             | 一般誌 | 美術 |
| 126 | 仏教文化研究        | 1, 2             | 仏教文化研究所      | 1951, 1952            | 学術誌 | 宗教 |
| 127 | 文化            | 復刊1(1)-21(1)     | 東北大学文学会      | 1948-1957             | 学術誌 | 人文 |
| 128 | 文学            | 1-16             | 岩波書店         | 1931-1932             | 学術誌 | 文学 |
| 129 | 文学評論しがらみ草紙    | 1-59             | 新声社          | 1889-1894             | 一般誌 | 文学 |
| 130 | 文芸界           | 7                | 金港堂          | 1902                  | 一般誌 | 文学 |
| 131 | 文芸倶楽部         | 23(12)           | 博文館          | 1917                  | 一般誌 | 文学 |
| 132 | 密教            | 3(1)             | 密教研究会        | 1913                  | 学術誌 | 宗教 |
| 133 | 密宗学報          | 1-184            | 真言宗京都大学而真会   | 1913-1929             | 学術誌 | 宗教 |
| 134 | 南亜細亚学報        | 1, 2             | 亜細亚文化研究所     | 1942, 1943            | 学術誌 | 東洋 |
| 135 | 都の花           | 1-100            | 金港堂          | 1888-1892             | 一般誌 | 文学 |
| 136 | MUSEUM        | 25               | 東京国立博物館      | 1953                  | 機関誌 | 美術 |
| 137 | 民俗学           | 5(6)             | 民俗学会         | 1933                  | 学術誌 | 民俗 |
| 138 | 民族学研究         | 1(1), 7(1)(3)    | 日本民族学会       | 1935, 1941            | 学術誌 | 人類 |
| 139 | 名家談叢          | 1-40             | 談叢会          | 1895-1898             | 一般誌 | 総合 |
| 140 | 幼年倶楽部         | 18(5)            | 大日本雄弁会講談社    | 1943                  | 一般誌 | 児童 |
| 141 | 陽明学           | 1-80             | 鉄華書院         | 1896-1898             | 学術誌 | 思想 |
| 142 | 歴史学研究         | 50-117           | 歴史学研究会       | 1937-1944             | 学術誌 | 歴史 |
| 143 | 歴史地理          | 13(6)-69(2)      | 日本歴史地理研究会    | 1909-1937             | 学術誌 | 人文 |
| 144 | 歴史と地理         | 2(2)-21(1)       | 史学地理学同好会     | 1918-1926             | 学術誌 | 人文 |

(かわち・さとこ／東北大学)